

目的や場面に応じた手紙を書く

1 はじめに

新学習指導要領の二年生の言語活動例として「社会生活に必要な手紙を書くこと」が設定されたことを受け、目的や場面・相手に応じた手紙の書き方、自分の考えや心情を正しく相手に伝える力、敬語の使い方、手紙の書式、優れた手紙文を味わうことなど、「手紙」をテーマとした総合的な活動が重要となっている。

手紙を書く際には、伝える相手の立場や気持ちに配慮するとともに、伝えたい内容の中心を明確にして、言葉を選び、気持ちを込めて書くことが大切である。また、手紙を書く際に大きな役割を果たす敬語については、二年生では言葉の特徴やきまりに関する事項の中に「敬語の働きなどについて理解すること」、三年生では「敬語を社会生活の中で適切に使うこと」とある。本実践は二年生を対象に行ったものだが、今回は三年生の内容まで踏み込んで扱うこととした。

2 学習の流れ

(1) 育成を目指す言語能力・主たる評価規準

- ▼事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く能力
- ▼目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式を工夫して手紙を書く能力

言語についての知識・理解・技能	書く能力	国語への関心・意欲・態度
相手の意図や心情が相手に効果的に伝わるように手紙を書いている。 目的や場面・相手に応じて工夫して手紙を書いている。	事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書いている。	自分の意見や心情が相手に効果的に伝わるように手紙を書いている。 目的や場面・相手に応じて工夫して手紙を書いている。

(2) 学習計画(全4時間)

第1時	第2時
①単元の流れについて理解する。 ②手紙の書式について学ぶ。その際、手紙の書式のもつ意味について考える。 ③既習事項の敬語(尊敬語・謙譲語・丁寧語)について確認する。	- A 四人グループを作り、各グループで次の四つの中から一つを分担して手紙を書く。 - B 小学校六年生のときの担任に近況を知らせる手紙。 - C 保護者に誕生日祝いをもらったお礼の手紙。 - D 転校した友達に近況報告をする手紙。

第3時

- ①グループごとに、書いた手紙を発表する。その際、次の三つの観点について説明する。
ア 目的や場面・相手に応じて敬語をどのように使ったか。
イ 内容をどのように工夫したか。
ウ その他、特徴的な点。
- ②A～Dの手紙について、目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式に違いがあることを学ぶ。

第4時

- 前時に学んだ「手紙は目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式に違いがあること」に気をつけて、実際に手紙を書き、先方に送る。
※便箋と封筒、切手を用意する。生徒には先方の住所と正確な氏名を調べておくように、事前に指示しておく。
- その際、目的や場面・相手について生徒に決めさせる。決めかねて筆が進まない生徒には、第2時のA～Dの中から選ぶように支援する。

(3) 指導上の留意点

- ①A～Dの四つの事例について、目的や場面・相手に応じて書き分けさせる。
- ・手紙は目的や場面・相手に応じて必要な情報が異なる。

- ・特に時候の挨拶や敬語を適切に使うことによって、改まった表現や親しみやすい表現等になる。
- ②内容や表現等を工夫し、書き手の個性や気持ちが生きるようにさせる。

(4) 単元を終えての生徒の感想

- 手紙の書式のもつ意味についてはその素晴らしさに感動・納得する生徒もいたが、一部、疑問を感じる生徒もいた。手紙を自分の意見や心情を効果的に伝える有効なツールとして熟知させていきたい。敬語に関しては日常的に繰り返し指導していく必要がある。
- ・手紙の書式は長い時間をかけて作り上げられてきた日本の伝統であり、由緒があつてよい。
- ・時候の挨拶のあと安否を問うが、「ご清祥のこととお慶び申し上げます」というのは、本当にそうかどうかわからないのに、そのように言うのは少し無責任というか冷たい。
- ・手紙の書式にしたがって書く気持ちがあうまく伝えられてよい。反面、堅苦しい感じがして、相手によっては自分の気持ちがうまく伝えられないことがあるかもしれない。

3 おわりに

国際化・情報化の進展、また人間関係の希薄化、さらにはコミュニケーション能力向上の必要性等、今後ますます「手紙を書く力」や「事実や事柄、意見や心情を相手に効果的に伝えていく力」の育成が重要となってくる。

今回、試みとして四つの事例について手紙を書くことで「手紙は目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式に違いがあること」を学んだ。今後も手紙を書く機会を設けて、機に応じたセンスのよい手紙、さらには手紙だけではなく報告文、案内文等を書く力も育成していく必要がある。



手紙を書こう

実践
提案

② 作者に出会うために——兼好法師に「手紙」を書く——

1 はじめに

竹西寛子氏は、「作者に逢えるか」(月刊国語教育研究一九九五年二月号)で、「古典文学に限らないが、文学作品を読む時の私にいちばん大切なのは、作者に逢えるかどうかということである。」と述べ、そして、「自分の全知識と感受性を全開して作品を読み、たとえ一瞬にせよ作者に逢えた、と感じられたなら、その時から改めて、私のその作品への嬉しい親近おなづきや探索が始まるのである。作者が生きて私が生きている。私が生きている。作者が生きている。」と結んでいる。

この稿では、学習者が古典に興味をもち、全力で読み、作品に親近感をもち、作品に「愉しさ」を感じ取れる方法として、「作者に手紙を書く」を通して、作者に出会う「実践を紹介したい。「作者への手紙」は、いわば作者との対話ともいえるよう。学習者が作者と向き合うのに適した方法だと思ふ。対象が古典であれば、時代を超えて変わらないものを見つたり、現代との違いを

感じたりと、主体的な読みが成立するのではないだろうか。

2 学習の流れ (全5時間)

第1・2時 「出会い①」	・ 作品や作者について解説。 ・ 二年「仁和寺にある法師」(第五十二段)の音読、口語訳を完成させる。 ・ この段の作者の思いを想像し、感想をもつ。
第3時 「出会い②」	・ 徒然草の他の段の口語訳を読む。(簡単な感想メモをとりながら)
第4時 「手紙を書く」	・ 読み取った段の中から二つの段を選び、作者・兼好法師に手紙を書く。(ワークシートに書き込む)
第5時 「交流」	・ 班で手紙を読み合う。 ・ 班の代表を決めて、みんなの前で発表する。

▼生徒に紹介した段

- ①「神無月のころ」(第十二段)
- ②「同じ心ならむ人」(第十二段)
- ③「いづくにもあれ」(第十五段)
- ④「名を聞くより」(第七十二段)
- ⑤「何事も入り立たぬ」(第七十九段)
- ⑥「ある人、弓射ること」(第九十二段)
- ⑦「高名の木登り」(第九九段)
- ⑧「双六の上手」(第一百十段)
- ⑨「友とするにわるきもの」(第一百十七段)
- ⑩「丹波に出雲といふ所」(第二百三十六段)

▼選んだ視点

- ・ 今も昔も人間の思い、弱点は同じなんだなと共感できる内容
- ・ 中学生の興味・関心に合わせ、読み取りやすい内容
- ・ 類似的経験を思い起こせる内容

▼使用したテキスト

『徒然草』(角川ソフィア文庫)

この本は、原文や通釈のほかに、テーマを示す見出しや解説、寸評が付いている。総ルビで、資料や挿絵も豊富で理解しやすい。

く、興味をもつて読める。

▼口語訳を読むときに

- ・ 内容を忘れないように、読ませるテキ

ストの段ごと、訳者のコメントの脇に、小さなメモ欄(私もひとこと)を設けておき、自分のつぶやきや、同じよう

な体験がなかったかを思い出させて書かせる。

3 おわりに

班で「手紙」を見せ合う姿は生き生きとしていた。手紙を読み、兼好法師のものの考え方がよくわかるとともに、手紙の書き手(生徒)どうしについて新たな発見があったという感想が多かった。

作者に「手紙」を書かせることで見えてくるものは想像以上に大きいようだ。まさに新学習指導要領二年「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」が、そのままの形で実践できたことを実感した。

また、作品や作者を身近に感じるだけでなく、自分の体験と比較させ、関連させながら「生き方」について考えさせるきっかけもできたのではないかと思う。

今回は口語訳を読みながらの学習となったが、今後の課題として、原文にもっと触れさせ、古文の文体の特徴や魅力に気づかせることにも取り組んでいきたい。

評書 兼好法師様

徒然草の中、心で描いたの(第十一)段の

「ああいふ家たはあはれ心してゐると、奥にあ、たがねの木の周りに飯をたいてゐて、あつていへんに顔がめしてゐた。」

という(言葉)です。

なぜかという、せ、かく趣がある空間なのに、固いがあることによつて、人間の顔が見え、てしまふのはやはり残念だと思つたからで、例えば、観光地などで古い街並を存、いせたり博物館で素直らしいものがあつても、そばに手を触れなくていい、さういふ、れが、あつたりしたう、なんだか、顔がめしてしまふ、それは仕方ないことですが、あつた、れを立て、なぐても大丈夫なのは、なあと思つてしまひますよ。

また、(十一)段の

人の名前をきき、その時想像したおまけと、実際の顔が違ふ、なり、物語の登場、人物を知りあひてゐてはめしてゐたり、いろいろなこと、言ひたうなことがあつたと、

というところ(言葉)にも関心を持ちました。

それは、私もよくさういふことがあるからで、名前だけ聞いて想像した顔と、実際の顔が違ふ、たり、本と読む時、し、絵がない場合は、知っている人にあつてはめしてゐたり、な、さうだなあ、と共感できます。また、これだけして、さういふ、想像の、この段を、面白くさせていると思ひました。

「あつた」な考えを持つ

兼好法師様は

見違へてしまひ、あつた、さういふ、想像は、さういふ、方ですね。

敬具

▲ワークシート

「報告書を読む」手紙指導

1 はじめに

中学校で手紙を扱うケースは、①国語の時間で形式を中心にした指導、②特別活動や総合的な学習の時間で職場体験等のお札などを書く指導と、大きく二つがある。

これらの授業が終わった後、「手紙をたくさん書きたくまりました」「手紙を書くって楽しいですね」という感想が多く出れば出るほど教師冥利に尽きるが、なかなかそうはいかない。実際は、「形や決まりがたぐさんあって、覚えるのが大変」「自分の書きたいように書いたほうが、思いが伝わる」などの感想が多かった。挙句の果てに「メールのほうが楽でいい」である。

この原因の一つは、自分の思いをどのような言葉で、どのように表現するかという「内容」の指導よりも、「形式」の指導に重点を置きすぎていたことである。

もう一つの原因は、興味・関心のもてる教材を生徒に提示してこなかったことである。教科書や国語便覧の例を参考にしながら

ら書くのだが、形式や主な内容を参考にする姿は見られても、「なぜ、この表現を使っているのだろう」「なるほど、この表現のほうが相手に伝わる」と考えながら、注意深く読む姿は見られないのが現状である。

2 指導の実際

今回は、二年生で「読むこと」を中心に据えた手紙指導を実践した。教材として用いたのは、おまけ付菓子におまけが付いていなかったという苦情に対して、二社の製菓会社で作成した「報告書」で、たまたま筆者が入手したもの。これを教材として用いたのは、この「報告書」が、正式な形式で書かれた本物の文書であり、しかも、相手意識や目的意識が明確な文書だからである。生徒にとって、おまけ付菓子は身近な存在であるので興味をもちながら読み進めることができる。

これらの要素を含んだ二社の「報告書」

3 おわりに

「次の時間は手紙の授業です」と言ったとき、「えー」という反応が返ってきた。そして、二時間の授業を終え、「これで手紙の授業を終わります」と言ったとき、また「えー」という反応があった。「手紙を書きたくなくなったのに、書かないで終わ

りなの?」「苦情を受けたつもりで報告書を書いてみたい」「相手が喜んでくれる手紙を書きたい」などという反応があったのはうれしい限りである。

生徒にとって興味・関心のもてる内容の報告書。それゆえ、二社の報告書を比較しながら、表現の細部まで読むことができた。あえて書く指導を省いたことで、かえって生徒の意欲も湧いたようだ。

の内容や表現の仕方を比較することで、評価しながら内容を読み取ることができるようになり、教科書や国語便覧に載っている「手紙の例」と比較することで、表現の特徴や表現の仕方を理解することができるようになると考えた。

■指導の流れと留意点・生徒の反応

第1時

- ①報告書の意味と内容を理解する。
 - ・不具合が生じた原因や、今後の対策等を読み手にわかりやすく説明する手紙。
 - ・会社の信用問題に関わるため、細心の注意で、言葉を選んで書かれる。
- ②それぞれの報告書を読み、感想を書く。
 - 【A社】
 - ・専門用語や難しい語句が多く、読み手にとってわかりやすい文書とは言えない。
 - ・項目別に書いてあるのでわかりやすい。
 - 【B社】
 - ・平易な文章で書かれており、子どもにもわかりやすい。

第2時

- ①二社を比較して気がついたことを書く。
 - ・謝罪文なのだから、ある程度の堅苦しさは必要。B社のように、口語体に近い文章は好ましくない。
 - ・B社は、「こちら側に原因はなかった」と言っているように感じられる。
 - ・お客様相談センターよりも、工場の方が書いた文書のほうが気持ちの人が直接謝っている感じがする。
- ②教科書や国語便覧の手紙例と比較しながら気づいたことをまとめる。
 - ・普通の手紙には時候の挨拶があるのに、これらの報告書にはないのはなぜか。
 - ・報告書に時候の挨拶を書くのは失礼にあたるのではないか。
 - ・そもそも時候の挨拶は、親しい間柄で使われるのではないか。
 - ・相手や書く内容によって、書き方を変える必要があると思った。
 - ・手紙や報告書の他にも特徴のある文書の書き方があるのか知りたくなった。

【A社】

平成〇年〇月〇日

株式会社〇〇〇 〇〇工場
生産技術担当課長

報告書

拝啓

平素より〇〇製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
この度は、弊社製品「〇〇〇〇〇〇」におきまして、大変ご迷惑をお掛け致しました。誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。
日頃から、品質第一に業務を進めて参りましたが、今回の様なご指摘を頂きまして、工場関係者一同、深く反省致している次第でございます。
就きましては、下記の通りご報告申し上げます。

敬具

記

1. ご指摘内容
製品名：〇〇〇〇〇〇
製造日：平成〇年〇月〇日
内 容：シールが入っていないかった

2. 発生原因
当該製品は生地を焼板に定量充填後、オーブンで焼き上げたウェハースにアーモンドとチョコレートを塗布し、2枚に合わせて冷却致します。その後カッターで切断、

【B社】

平成〇年〇月〇日

〇〇株式会社
お客様相談センター

拝啓 いつも商品をご愛用いただきまして、まことにありがとうございます。
このたびは弊社商品「〇〇〇〇〇〇」をせっかくお買い求めいただきましたにもかかわらず、カードの欠品にてご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。また、ご報告までにお時間をいただきましたことを重ねてお詫び申し上げます。
さっそくですが、カード欠品につきまして、調査結果のご報告をさせていただきます。
本商品は、カード欠品及びグミの充填不足を防ぐため、商品梱包後にウエイトチェッカーによる重量全数チェック工程にて、重量の過不足品の排除を行っております。今回お送りいただきましたグミの重量を測定したところ規定の分量でございました。カード欠品商品であれば、本来排除されるべき商品でございますので、当日の作業に問題が発生していないか、ロット番号より作業日報を確認いたしました。作業当日は、ウエイトチェッカーの始業時、午後開始時、終了時に動作確認を行っており、作業中にもトラブルの発生はなく、欠品の原因を追究することができませんでした。
しかしながら、〇〇〇〇〇様のお手元にこのような商品が渡ってしまった事実を真摯に受けとめ、更なる品質管理の徹底を行う所存でございます。
今後におきましても、お客様に安心してお買い求めいただける商品づくりに努めてまいりますので、引き続き商品をご愛用くださいますとともに、お気づ

◀手紙の全文は、光村図書のホームページから参照できます。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/soudan/houkokusho.html/>